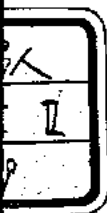


婦人関係業務資料 No. 4

「標準家事作業」の指導について

労働省婦人少年局



目 次

1 ホームヘルパー養成講習と標準家事作業	1
2 標準家事作業の指導方法	2
(1) テキスト及び参考資料	2
(2) 指導上の留意点	10

1 ホームヘルパー養成講習と標準家事作業

ホームヘルパー養成講習は、事業内ホームヘルプ制度の実施に必要なホームヘルパーの確保を図るため、ホームヘルパーの業務に必要な知識技能を習得させるための講習である。

労働省の定めている事業内ホームヘルプ制度の方式では、ホームヘルパーの資格について「ホームヘルパーは、一定水準の家事作業の技術を有するものとする。」としており、この技術を、講習時間の多くを占める「家事」「標準家事作業」「実務訓練」の教科の指導によつて習得させようとするものである。ホームヘルパーの職務は、一般家事使用人の如く主婦の指示命令にしたがつて働くのではなく事業場の命により、事故のある従業員家庭に派遣されて、当該家庭の家事援助のための作業を所定労働時間内に行なうことであるから、その技能習得は必要な個々の家事技術の練達が前提となることは勿論ではあるが、それのみでは充分ということができない。すなわち「家事に関する個別的な知識及び技能を総合して、事業場より指示された業務を所定労働時間内に、円滑かつ能率的に遂行しうる能力」が必要となるのであつて、その能力を養うために行なわれるのが「標準家事作業」の指導である。

この点が、家庭婦人や、家事使用人等を対象とする他の家事技術の講習会等と異なる点であり、その意味で、ホームヘルパー養成講習では、標準家事作業は、いわば中核教科として重きを置かれなければならない。

なお、本講習においては「社会」における事業内ホームヘルプ制度の理解と、「家事」の教科の個々の内容の習得の上にたつて「標準家事作業」の指導が行なわれることになるのであつて、それはさらに事業場における「実務訓練」につながるものである。

2 標準家事作業の指導方法

(1) テキスト及び参考資料

標準家事作業の名称は耳新しいものであり、家政学の立場からというより、社会化された家事的職業（しかもこの場合家政婦のような自由業ではない）としての必要性から生れたものであり、その具体的な指導内容及び指導方法については、まだ社会的に通用する場をもつに至っていない。

そこで本講習のために、指導用としてテキスト「標準家事作業」を作成した。

本教科の指導にあつては、ホームヘルパー養成講習の教科指導要領中3、標準家事作業の項記載の要領で行なうのであるが、「指導要領」記載の内容と、テキストの内容との関係は次の通りである。

指導の内容	テキスト使用方法
(1) 標準家事作業大意	テキストによる講義
イ 標準家事作業の意味と必要性	
ロ ホームヘルパーとして行なう家事作業の範囲	
ハ 標準家事作業の型	テキスト記載練習課題又は講師出題による演習
(2) 標準家事作業の編成	
イ 具体的な編成の仕方	
ロ 想定された各種の派遣理由及び家庭状況による具体的な作業編成の演習	実習上の注意についてはテキストによる講義
(3) 標準家事作業の実習	

また、婦人関係業務資料「事業内ホームヘルパ制度—その方式と運営について—」は、指導に関して講師の参考とすることができる。

なお、具体的な作業編成の演習の課題として、参考のためにその編成の例をあげておく。

この編成事例は、第1回ホームヘルパー養成講習を日本女子大学桜楓館で行なった際、受講者グループ研究による編成にもとづき実習を行なったものに、若干の手を加えたものである。

ことには記入されていないが、作業編成にあわせ、個々の作業について、例えば調理献立なども計画させることもよく、とくに実習にとり上げるケースには必要であろう。

【課題1】

派遣理由・・・妻流産のため自宅療養

家族状況・・・夫勤務、老人(要保護)1名

標準家事作業事例

- ① 重点作業・・・病人の世話を第一とし、ついで老人に事故がおこらぬようにする。
- ② 留意点・・・上の理由から、日常家事は最小限にとどめ、重点的に配置する。病人の突発的な要求に応じるために、予定作業中どれを省略するか、簡素化する心構えをしておく必要がある。

③ 作業編成

		作業内容	備考
8時	20	病人に容態をきき、1日の仕事の打合せをする	
9	30	朝食後片付け、掃除	病人の寝室は電気掃除機のある家庭ではそれを使用すること、ない場合、短時間起きていること可能なら掃除のすんだ隣室に移つてもらつて掃除する。移動不可能な時は出来るだけほこりの立たぬ様にはきその間顔に覆をしてもらひ、掃除のついでにふとんをじき直してあげる。
10	15 25	老人の世話をしたり用事を何う 病人と老人にお茶をあげる 休憩	
11		病院に薬をとりに行く 昼食の買物及び準備	
12		病人及び老人に食事の世話をする	食事の前に薬をのむ必要あれば指示に従ひのませる。
1	30	昼食、休憩	
1	10 30	昼食後片づけ	
2	30	洗たく	病状、季節により、保温、換気、病人の清潔等を配慮する。
3	15 25	おやつ準備 病人、老人におやつを出す 休憩	
4	40	買物、夕食準備	
5		病人の細かい用事を足し、会計報告、連絡事項をつたえる 帰宅	

【課題2】

派遣事由・・・実出産（産後1週間、自宅静養中）

家族状況・・・夫勤務、新生児1名、幼児1名

標準家事作業（例）

- ① 重点作業・・・新生児の沐浴、調乳その他の世話、洗濯
- ② 留意点・・・幼児が産婦及び新生児の邪魔にならぬよう、世話をする。洗濯物は多量で手まめにすることが必要となるので、計画の中で考慮する。

③ 作業編成

	作業内容	備考
8時	20 仕事の打合せ	
9	朝食後片付、掃除	産婦の寝室は床をあげて掃除をするのが望ましい。その間、産婦には掃除のすんだ部屋に移動してもらう
10	30 洗濯、10時に産婦にはお茶をいれ、 幼児には簡単なおやつを与える	
	30 休憩	
11	40 産婦に用事の有無をきき細々とした事をする	
	昼食の買物、準備	
12	産婦に食事を出し、幼児に昼食の世話をする	
	30	
1	10 昼食及び休憩	
	30 昼食後片づけ	
2	裁縫つくろい物又はアイロンかけ等 赤ちゃんに沐浴	前日の洗濯物も合せアイロンをかける必要なものが多いときこの時間にアイロンかけをする。一、二枚の時は明日の分と一括にする
3	40 おやつ準備 20 おやつを与える（幼児・産婦） 30 休憩	
4	洗たくもの取入 夕食の買物、夕食の準備	
5	45 会計報告、その他連絡事項など主婦に十分話す 帰宅	

【課題3】

派遣事由・・・妻緊急用務のため外出

家族状況・・・夫勤務、子供4才、2才（幼稚園や保育所に通っていない）

標準家事作業（例）

- ① 重点作業・・・幼児の世話
- ② 留意点・・・幼児の健康と安全に気を配るとともに、母の不在により不安がつたり淋しがつたりせぬような配慮が必要。健康と安全に関すること以外はむしろ自由にさせる。終業時までには家事担当者が帰宅すれば、口頭により、そうでなければメモなどにより、子供の生活に関し十分な報告をする。
なお後者の場合は、隣家などにも声をかけておく。

③ 作業編成

	作業内容	備考
8時	15 出勤、仕事の内容、幼児の世話について打合せ	
9	30 食後の片づけと室内の掃除	
10	30 幼児の相手 おやつを与える	
	30 休憩	
11	40 洗濯	
	30 昼食準備 昼食を与える	
12	30 昼食、休憩	
1	10 後片づけ及びおやつ作り	1.30～2.30 幼児に昼寝させる
2	衣類整理 洗濯物とり入れ	
3	30 おやつを与える、簡単な掃除整理 40 休憩	
4	50 夕食の買物及び夕食準備	幼児を連れて外出する
5	1日の報告 帰宅	

〔課題4〕

派遣事由・・・妻実家の不幸のため帰郷不在

家族状況・・・夫勤務、夫の妹（胃腸病で比較的長く就床）

標準家事作業（例）

- ① 重点作業・・・病人の世話を中心とする。
- ② 留意点・・・病気の性質上、食事や投薬について打合せをよくする必要がある。外出時や、仕事の区切りに、度々病人に声をかけて様子や用事をきくようにする。
- ③ 作業編成

	作業内容	備考
8時	30 出勤、仕事の打合せ、病人の世話についての連絡をきく、病人に用件の有無をきく	
9	30 食後の片付け及び掃除	
10	15 洗濯 30 病人の世話 40 休憩	
11	掃除の行きとどかなかつた所をする。例えばガラス拭き	
12	昼食の買物、準備	
1	30 病人に食事をさせる	食事前後の薬を指定の時間に与える
1	10 昼食、休憩	
2	50 食事の後片づけ	
2	50 病人に清拭その後お茶をあげる	
3	20 洗濯物の仕末、衣類整理（アイロンかけ） 30 休憩	
4	40 夕食の買物 夕食準備	
5	会計報告、その他の報告をすませる 帰宅	

〔課題5〕

派遣事由・・・妹（労働者には配偶者なく、妹が家事担当者）が止むを得ない所用のため不在

家族状況・・・世帯主勤務、老母（要保護）1名

標準家事作業（例）

- ① 重点作業・・・老人の世話（起居動作が不自由な老人のための介助作業）及び日常的な家事作業
- ② 留意点・・・老人に対しては、動作の不自由な場合は介助の必要がある。家事作業のくぎりや、外出の前などに、しばしば声をかける。特に、幼児との差に留意し、萬一避難の必要が生じた場合のことも考えておく。
- ③ 作業編成

	作業内容	備考
8時	15 1日の仕事の打合せ	
9	15 朝食後片づけ、掃除	
10	15 洗濯 30 老人へお茶を出す（おやつ） 40 話相手になる	
11	30 休憩 40 晴天ならば老人のふとん干し、お茶の片付け	
12	昼食の買物、準備	
1	30 老人に昼食の世話	
1	10 昼食及び休憩	
2	昼食の後片付け、老人のおやつを作る	
2	家事担当者に特に依頼された仕事をする。つくろいものをする。洗濯物の始末、ふとん取入	
3	20 老人におやつを与える 30 休憩	
4	買物及び夕食準備	
5	45 会計報告、連絡事項をつける 帰宅	

〔課題6〕

派遣事由・・・妻緊急所用の為不在

家族状況・・・夫勤務、子供(小学1年及び3年)2名

標準家事作業(例)

- ① 重点作業・・・子供の世話、ただし手をかけすぎないようにし、学校からの連絡事項などをはつきりたしかめて、家事担当者に報告する。日常家事(洗濯、食事、掃除など)の量が、子供のいるために多くなるから、それに重点を置く。
- ② 留意点・・・学童に対しては、その自立を妨げないようにし、世話をやきすぎないようにする。在宅家族は子供2人であっても、学校より帰った後、友達遊びにくることがあり、家事遂行の妨げになることが多いから、なるべく午前中に主な作業を行なうようにし、午後は簡単な仕事を予定し、子供の状況に即して仕事が進捗できるようにしておく。

③ 作業編成

	作業内容	備考
8時	出勤、仕事の打合せ	
9時	朝食後片付、掃除	
10時	洗濯	
11時	休憩	
12時	縫いもの又はガラス拭き、草取等一般のお掃除で足りない部分をする	
1時	昼食、休憩	
2時	子供の帰宅後の服装準備	小学生は給食のため昼食準備必要なし、もし必要な時は午前中の作業を30分位割いてする。
3時	小学校1年生帰宅、手足を洗わせたり、洋服を着かえる様にさせ、学校の連絡事項等をきく	
4時	おやつづくり	
5時	小学校3年生帰宅、1年生と同様にさせる	
6時	一寸休んだら2人に勉強させる様にする 洗濯物取入	
7時	子供の通学服の始末(洗濯の必要のものはしておく)	
8時	おやつを与える。この間10分間ヘルパー休憩(近所の子供も一緒)	
9時	夕食の買物(小学校3年の子供に留守番をたのむ簡単な戸締りをしていくのもよい)	
10時	夕食準備	
11時	会計報告、連絡事項の報告、帰宅	

(2) 指導上の留意事項

- ① 標準家事作業の編成及び実習は、「家事」の各分野の知識技術を得た後に行なわれるのが当然である。実務訓練に移る直前に行なりよう、講習の時間割作成が望ましい。
- ② 「家事」の各分野の指導は時間的制約のため、重点的に行なわれ、萬全を期しがたい場合もあるので、標準家事作業の編成や実習に当って、それを復習し、補足指導する必要が生ずることも考えておく必要がある。特に実習の場合過去の経験習慣に傾き、折角の「家事」の学習が活用されないことになり易いきらいもあるからである。
- ③ 演習については、テキストに出題した課題のほか、指導時間の余裕や受講者の能力に応じ、派遣理由と家庭状況を想定したいくつかの課題を策定して課することは差支えない。
- ④ 演習及び実習は、個人別指導が望ましいが、場所や時間の関係上グループ別に行なっても差支えない。個別に作業編成する場合は交換して評価させることがよい。グループ毎の場合も同様である。
- ⑤ 作業編成の演習は1日分を通し編成するが、実習は、編成したものの数例を選んで、これを便宜上半日程度に区切つて行なわせても差支えない。これ以上の分割は無意味である。半日に分割する場合は、午前分担者と、午後分担者の連絡を円滑にし、なるべく実際に即した方法を行なわせることがよい。
- ⑥ 作業実演を特定の者に行なわせる場合は他の受講者が、観察、相互批判等によつて参加するように指導する。観察者には、終始沈黙を守り「壁」となり、「時計」となつて「見る学習」を行なわせるのがよく、正しい学習や、客観的な評価の妨げとなるような助言や不必要な介助をし

ないように指導する必要がある。

- ⑦ 標準家事作業の編成演習や実習は、事故の家庭を想定して行なうので、必ずしも実状に適合しないという弱点はある。しかし、最も客観的に考えることができるので、重要な基本線を把握し、同時に応用に便するモデルとする強味がある。

実際の家庭における作業の場合には、時として突発的な事柄により、計画の円滑な遂行が妨げられる場合がある。その事柄の内容に即応して計画を変更するなど、善処しなければならないが、それに注意を奪われて、動揺し、全体をかき乱されてしまうことがないためにも、基本線についての計画が必要であることを理解させることが肝心である。